

障害者雇用支援センター 社会性の向上を目指して

就労の現場では、上司からの指示をしっかりと理解したり、自分の考えを同僚に伝えるなどのコミュニケーション力が第一に求められます。ところが、ここ数年の利用者の状況は、社会経験が少ない又は全くない、対人関係に緊張が強く、コミュニケーションが苦手という方が増える傾向にあります。

そこでセンターでは、ビジネスマナーの習得に加え、対人スキル等を重視したプログラムを訓練に取り入れています。

最初に、センターが新規プログラムとして今年度から導入したVR（バーチャル・リアリティ）をご紹介します。

このプログラムには、現場で起こりえる他者への対応場面に係る多様なコンテンツが用意されています。それらのコンテンツをタブレットで選択し、着用したゴーグル内でその対応場面を360度のVR映像で体験するものです。（写真1）（写真2）

利用者からは、実際に現場にいるような現実感や緊張感があり、業務指示の受け方や説明、謝罪の仕方を学べる、3D映画のような立体感によって人との距離感が分かりやすいだけでなく、失敗しても何度もチャレンジできるなど好評です。

次に、センターが従来から行い、磨いてきたSST（ソーシャルスキル・トレーニング）をご紹介します。（写真3）

SSTは、職場で起こりえる様々な場面（仕事上の対応や挨拶等）を設定し、その時の伝え方や適切な所作についてロールプレイを行う中で習得するものです。先にご紹介したVRプログラムは個人で行いますが、SSTプログラムは集団で行います。参加者同士で良かった点や改善した方がよい点などを話し合い、振り返りを行うことを通じて他者との関係を築く力などを高めるプログラムです。

センターは、今後も人と人とのリアルな会話によるプログラムを基本としつつ、それをVRなど最新のツールで補いながら、利用者のコミュニケーション力やビジネスマナーの習得を図り、実際の就労場面での自信に繋げていけるよう取り組んでいきます。



写真1(訓練の様子)



写真2(VRの画像)



写真3(SSTの場面)



企業向けセミナーを開催しました



6月29日(火)、Zoomによるリモート配信にて、企業の人事担当者や施設等関係機関において就労支援に携わる方を対象に、企業向けセミナー「特別支援教育の取り組みと展望について」を開催いたしました。講師には、30年以上の長きにわたる特別支援学校での教員経験を持ち、現在、東京都教育庁特別支援教育指導課において就労支援をご担当されておられる明石則雄氏をお迎えし、特別支援学校の現状と就労支援体制、さらに新型コロナウイルスが就職活動にどう影響を及ぼしているかといった、いま最も関心もたれる内容も交え、非常に有益なお話を伺うことができました。

また、参加したみなさまからの活発な意見交換では、安定した企業就労を継続させるための支援のあり方やキャリアパスの描き方、またコロナ禍での在宅勤務の内容についてなど、実務に即した貴重な情報共有の場となりました。

今後も、様々な場面から得られる企業のみなさまからの声に耳を傾け、ニーズに応える内容でのセミナーの開催を目指していきたいと思っております。



家族向けセミナーを開催しました

7月26日(月)、障害者福祉会館会議室にて「話し合ってみましょう、現在のこと、未来のこと」というテーマで、徹底した感染対策のもとワークショップを開催し、18名のご家族の参加をいただきました。今回のセミナーは初の取り組みとして、参加したご家族を4つのグループに分け、各グループのリーダーを中心に参加者による進行をお願いしました。各グループとも自己紹介から始め、各々の悩みを話し合ったり、情報交換など積極的な意見交換が行われました。

その後、アドバイザーとして迎えた杉並区保健福祉部障害者施策課池田基幹相談支援係長、すまいる高井戸春山センター長が各テーブルをまわり、日頃知りたいけれど聞けなかったこと、どこに相談したらいいかわからないことなど、一つ一つに丁寧なアドバイスをして下さいました。



参加したご家族からは、「同じ悩みを持つ親同士、交流できてよかった」、「障害者の地域生活すべてに繋がる内容だった」、「また開催してほしい」などの感想をいただきました。

今後もご家族の方に少しでも安心をお届けできるようなセミナーを開催していきたいと思っております。



就職しました (6月・7月・8月)

新しい職員が加わりました

事務・事務補助 3名 清掃・製品仕分け 1名

支援員 小板橋職員 (8月1日付入職)

清掃・シュレッダー 1名 店舗での商品整理 1名

計6名

写真については、ご本人の了解を得て掲載しています。